

液晶テレビ AQUOSクアトロン3D LC-60XL9



開発者より



デジタル情報家電事業本部
液晶デジタルシステム第1事業部
第1技術部

柴田 和宏

「モスアイ®パネル^{※1}」という液晶テレビでは新しい技術を採用して開発する中で、メンテナンス性や生産性などのさまざまな課題を関連部門とともに解決し、このような商品として世に出すことが出来ました。ぜひ、明るいお部屋の中でも高コントラストな映像を体感して下さい。

AQUOS クアトロン 3D LC-60XL9は、外光の映り込みを抑え、艶やかで深い黒を再現する「モスアイ®パネル^{※1}」を採用し、色表現力を高める「4原色^{※2}技術」を際立たせ、高画質を実現したモデルです。音質面では、3ウェイ5スピーカの「2.1chフロントサウンド」音声システムを搭載。独立した密閉構造のスピーカボックスを採用することで、迫力のある高音質とともに「新・AudioEngine™^{※3}」音声LSIにより、クリアで聞き取りやすい音声を再現します。また、テレビ放送とネット情報^{※4}をわかりやすく一覧表示する「ビジュアル モーションガイド」で、気になる番組を簡単に見つけることができます。おすすめの番組や暮らしに役立つネットサービス^{※4}など、今まで気付かなかったコンテンツを発見することで、テレビの新しい楽しみ方を提案します。

※1 モスアイ®は、大日本印刷株式会社の商標または登録商標です。

※2 4原色とは、当社独自のディスプレイ上の色再現の仕組みであり、色や光の3原色とは異なります。

※3 AudioEngine™は、ヤマハ株式会社の商標です。

※4 インターネットサービスの使用には、ブロードバンド回線や各種設定が必要です。

モスアイ®パネル

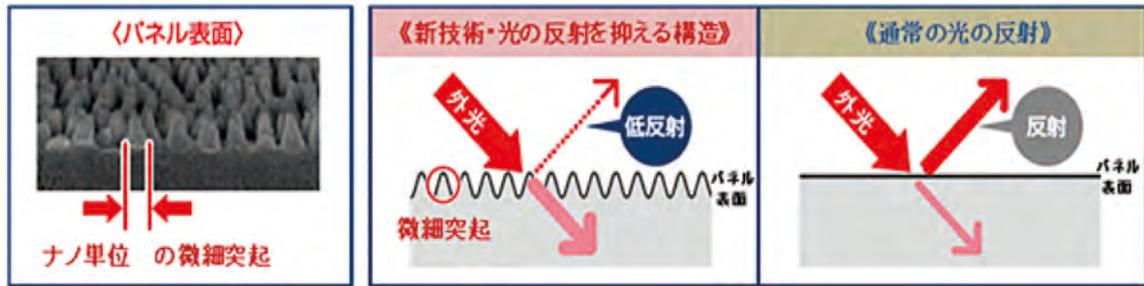
光の波長よりも小さなナノ単位の微細突起が反射を引き起こす屈折率を連続的に変化させ、反射を抑える蛾の目の構造を液晶パネルの表面に応用し、外光の映り込みを抑えています。また、一般的な液晶パネルのように光を拡散して映り込みを低減する仕組みとは異なり、パネル表面で外光や映像の光を遮ることなく微妙な色や明暗の表現が可能となり、艶やかで、深い黒を再現した映像を視聴頂けます(図1)。

2.1chフロントサウンド

幅広い音域の再生に適した3種類のスピーカ(サブウーハ、ミッドレンジ、ツイータ)で構成した音声システムにより、豊かな音を実現します。「新・AudioEngine™」音声LSIをAQUOSのスピーカシステムに最適化。周波数特性と位相の乱れをトータルに補正することでクリアな音質と自然な音像定位を実現。同時に反響する仮想音を組み合わせる倍音合成技術で低音感を拡張し、高音質を実現します(図2)。

アルミフレームデザイン

左右のフレームに黒の塗装を施し、大画面の広がり表現。さらに画面周りには、アルミ素材を使ったスリムフレームを採用することで、財貨感と筐体の剛性を両立したスタイリッシュなデザインです(図3)。



モスアイ®パネルの構造



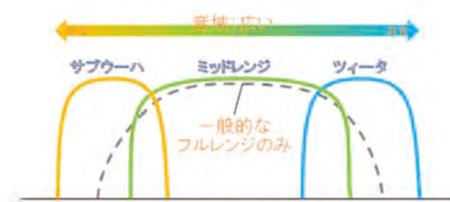
「モスアイ®パネル」と非「モスアイ®パネル」との比較

(左：映り込みのあるパネル 中：「モスアイ®パネル」 右：一般的な低反射パネル)

図1 モスアイ®パネル



3ウェイ 2.1chスピーカを組み合わせ
豊かな音を再現します



フロントサウンドだから音抜けが良く聞こえます

図2 2.1chフロントサウンド



図3 アルミフレームデザイン

本記事は2013年1月に当社ホームページに掲載したものです。